

## スペインの黄昏 たそがれ

スペインのマドリッド空港が近いらしく、機は着陸態勢に入った。街の灯りが赤く見える。何かほの暗く赤いのだ。フィラメント電球を灯しているかのようだ。街全体が昔のままのうす暗がりなので、悲しく人恋しくなるような灯りだ。

私はスペインが気に入り、何回も足を運び、いわば虜になったのは四〇年ぐらい前の事だ。私は当時、中世の大転換期の人々の生き様をリアルに描いたボツシユの絵に取りつかれて、ネーデルランド・ドイツ・オーストリアなどを廻って旅を重ねていた。オーストリアのホテルのオーブンカフェで遅い朝食を食べていた時、二人の男が近づいて来て、目の前でトランプのカードを配り、ゲームをしようと言ったのだ。私はかけゲームには興味が無く、トランプゲームを知らなかつた。

鼻を斜めに切られた傷のある、形の整った顔の男はスペインのマラガから来たという。ピカソの生誕の地でもあるマラガまで行こうと決めた。ユーレイルパス

## 亀井 昭

を持つていたので、ヨーロッパならどこにでも日本であればグリーン車が乗り放題なのだ。

マラガの街は中世のようなアラブ様式の残る街だつた。トランプの男はこの町で許されぬ恋に落ち、鼻を斜めに切られ、旅から旅の賭博師として流れ流れてヨーロッパを、さまよっているのかもしれない。スペインはフラメンコの衣装のように原色で、コントラストが強く、生か死か、悪か善か、はっきりしているように思う。

今では私も老いてしまい最後の旅をスペインにしようと思つたのは、スペインの強烈な印象が忘れられないからだと思う。六回ほどスペインに旅をしたが、いづれも強烈な印象だつた。

二〇一三年一月のスペインの旅は、グルーブツアーで一五人位の、知らない人々の寄せ集めのツアーだつた。グルーブツアーだったので、大船に乗つたつもり、バスに乗つたらあまり歩かないで、感慨にふける事が出来ると思ひ込んでいた。

若い添乗員の女性はてきばきとマドリッドのホテル？に案内した。私の考えるホテルのようではないので驚いた。このホテルはロビーも無く、ガードマンもボーイさんも居なく、閑散としたうす暗い庭に集合して、暗い廊下を通り先に進むと電燈が灯り、少し進むと次次に電燈が消えてゆくシステムだ。ホテルでこのような所は初めてだった。古い鍵を渡されて、売れ残った。マンシヨンのような部屋に案内された。

私はおながすいていた。お昼の機内食を食べて以来何も食べていなかった。バーに案内してもらった。広い一階のホールの一角にバーがあった。カウンタートーブルも、冷蔵庫も流し台も、移動式備品(すべての備品にキャスターが付いていて移動可能)のバーでフランスパンに生ハムを挟んだジャンボンを食べ、ビールを飲みマタドール・ベテラーノというスペインのブランデーを飲んだ。生ハムは妙に白く、柔らかく、生ハム特有の発酵臭が感じられず、美味しくなかった。スペインのブランデー、マタドール・ベテラーノは黒い牛と闘牛士の赤いマントと闘牛士がラベルに描かれている。ベテラン闘牛士の意味があるそうだ。闘牛士が引退すると、小さなバーなどを開き、若き日の闘牛士の写真や帽子・ケープ・剣などを飾り、ベテラン闘

牛士はいつまでも昔の若いままの闘牛士の思いに浸り、お客も若いままで昔の思い出に浸る。闘牛士を引退してしばらくは、闘牛場で殺された黒牛の肉も廻って来るが、闘牛場で殺されるような猛牛は肉が堅く、ストレスがあるので硬くて美味しくないそうだ。それでも若い頃は猛牛の目玉や舌などを貰い、それぞれに使い方があった。猛牛の眼球を女性のワギナにはめ込み、殺された猛牛がここで泣いていると、感傷に浸ることもあったらしいが、闘牛士は若くして引退する。そのような男の中の男も、思いの中で闘牛士をずっと続けているので、今はすっかりくたびれてバーの片隅で椅子に座ってあまり動かない。

当時私の行った、マドリッドの闘牛場の近くの、ベテラン闘牛士の店は、闘牛場の興奮を引きずったまま興奮が収まらない。肉の他に夏場はムール貝が良く食べられて、空のムール貝でムール貝の身をつまんで食べるのだが、食べた後のムール貝の殻は足元の土間に捨てるから土間が少しづつ高くなり、ベテラン闘牛士との間隔も近くなり、常連客と話しがはずんでいるようだ。同じ事を何万回聞いても、話しても飽きず昔の栄光が蘇って来るのだろうか？マドリッドの闘牛はまだあるそうで、夏には大いに盛り上がるそうだ。動

物虐待だからやめるようにとの勧告もあるそうだが、スペインの伝統だからと国際世論を退けて、闘牛を続けているのは立派な事だと思ふ。日本の捕鯨も頑張つてもらいたいものだ。ついこの前まで鯨油を取るためにだけ、クジラを殺しランプの油にしていた者たちが、残酷だから止めさせようとするのは、あまりにも身勝手である。人間の数よりの食肉用の牛が多いオーストラリアの人々が食肉用の牛を殺し、商売している。仙台の牛たんはオーストラリア産の牛舌だそうだ。閻魔大王でもあるまいし、嘘のつけないおとなしい牛の舌を抜いて稼いでいる人々が、鯨を捕るな、とは言えない。漁師の友達が多い私は相模湾に入り込み、何でも食べてしまふ鯨に手を焼いている、定置網漁の漁師さんに同情するのだ。相模湾で三〇頭ほどの鯨の群れを見た事がある。伊豆の富戸や川奈でも、昔から行われているイルカ漁は残酷だというが、牛や豚、鳥、カンガルなどを食べる白人、肉食い人間にそんな事をいふ資格が無いのは明らかである。スペインの闘牛はかなり残酷である。

マドリッドの闘牛は午後三時ごろから始まるが、二時頃から入場して騒いでいるのは、入場料の安い午後

に日がさす東側の席である。

西側の席は紳士淑女の席で、闘牛が始まる直前に席に着く、よく調べていないので解らないが、入場料が十倍位高いという噂だ。今は個人では席が取れないそうだ。

スペイン人はたとえ食べなくてもオシヤレにお金を使うそうだ。男も女もオシヤレだ。闘牛士も足から頭の帽子まで計算され尽くしたナイトのような姿で入場する。闘牛士は帽子をとって会場の皆様にご挨拶するのだが、特に西側の紳士淑女の方に丁寧な挨拶する。馬に乗った闘牛士も挨拶する。短い槍を持った闘牛士の手下みたいな輩も挨拶する。

今日の影の主役黒牛が登場する。観衆がどよめくからか黒牛が興奮して駆け回る。東側の大衆席からブーイングが起こる。闘牛士の格と黒牛の格が釣り合わない、ブーイングしているようだ。一斉に貴賓席の一点を見る。着飾った貴婦人が立ち上がり、ハンカチのような物を落とす。大衆席のブーイングは止み、歓声に変わる。牛が駆け回っているが、牛の入場門の方から乳牛が三頭程入場してくる。黒牛はおとなしくなり、乳牛に導かれるように退場する。

五〇〇キロ以上もあるうかという猛牛が駆け込んでくる。頭を下げて時々突きあげる。会場がざわめき歓声が上がる。今度の牛は合格のようだ。黒牛は前足で地面の砂を後方に弾き飛ばし、頭を低くしてまだ見えぬ敵に対して突きかかる。

馬が全身に鎧を付けて、長槍を持ち鎧に身を固めたきらびやかな闘牛士を乗せて登場する。黒牛は馬めがけて突進する。馬のわき腹に黒牛は角を当てる。馬上の闘牛士は長槍で黒牛の前足の付け根に槍を突き立てる。黒牛は馬の腹部を鎧の上から、角で突き上げると馬は横倒しになる。別の闘牛士が赤いマントを持って五人位出て来て、横倒しになった馬と、長槍を持った闘牛士との間に入って、黒牛の注意を馬から引き離そうとしきりにマントをひろげたり払いのけたりする。

黒牛は赤いマントの闘牛士に突きかかる、闘牛士は観客席と闘牛場との間にある、厚い板で囲まれた逃げ場から上にはねのけるように角で払いのけようと全身の力でぶつかってゆく。厚い木の板は上部が折れて外れ、黒牛は闘牛士を追って中に入ろうと、前足を板の上に乗せて全身の筋肉を露わにする。黒牛の鼻から粘液状の鼻汁と、よだれが白い泡状になって流れる。

闘牛士は観客席の中に逃げ込もうとするが壁が高いので手間取っている様子だ。観客が手を貸して闘牛士を救い出した。闘牛士は胸に手を当てて感謝を伝えた。馬上の闘牛士が再度現れて、長槍で黒牛の前足の付け根に長槍を立てた。先ほど観客席に逃げ込んだ闘牛士たちが、短い槍を持って黒牛に近づき黒牛の肩に、短い槍を突き立てる。槍の上部には鳥の尾羽のようなひらひらした物が付いている。一人で二本突き刺す。黒牛の盲点について近づくのだろうが、観客ははらはらしながら見ている。短い槍が黒牛の肩に突き刺さると、本式の闘牛士の登場になる、赤いマントとサーベルのような反りのある剣を持って、赤いマントで誘い黒牛が翻弄される。観客の音がする。

「オレ！オレ！オレ！」

赤いマントがひるがえり、黒牛が突きかかり、闘牛士が黒牛のすぐ側をすり抜ける度に観客の興奮した声がする。

「オレ！オレ！オレ！」

何度か闘牛士は黒牛のすぐ側をすりぬけ、間合いを測っているが、サーベルを赤いマントの中から取り出して、黒牛の頭部後方に回り込み、前足と身体と首の接合点の窪みにサーベルを突き立てる。サーベルが根

元まで入ると、黒牛は倒れ込むように前足から崩れる。しばらくは身体の痙攣が小刻みに起きる。赤い血が地面の砂を濡らし、観客のどよめきが聞こえる。

貧相な馬がフックのついた板きれを引きずりながら現れ、黒牛のあと足に巻いたロープをフックに巻きつけて、砂の上を引きずりながら退場する。砂の上に黒牛の血の跡が残るが、強烈な太陽が乾かして行く。

観客たちはざわざわと帰りに着く、いつの間にか私は日本人の男と連れになっていたのだが、観客の後に歩いて行ったら、老闘牛士の店に入っていたのだった。日本人の男は無口な人で、感情表現が乏しく、黙々と酒ばかり飲んでいた。

私はホテルとも言えないような所のバーで、マタドール・ペテラーノを飲んでいた。隣にはメキシコから来たという男がビールを飲みながら、話しかけてきたが、私は四〇年ぐらい前の、暑い夏の日の闘牛の思いにふけりながら飲んでいた。今から思うと、馬上の長槍を持ったマタドールの腕が一番の、闘牛の花なのかもしれない。深く傷つけ過ぎても、浅くともいけない。前足の付け根の筋肉は程良く傷つける。万が一黒牛が闘牛士を角で突いても、さほどのダメージにはならな

い。闘牛は計算され尽くした、ショウなのだ。

朝、目が覚めたら、さあ大変。パスポートを入れておいた黒いカバンが無くなっていた。今日は大移動の日であった。マドリッドから北スペインのカタルニア地方まで、バスカ地方まで移動する日だった。私はツアーを断念した。パスポートを取得しなければならぬ。若いガイドはいやにてきぱきと私にお金(ユーロ)を渡し、

「この部屋で待っていれば、あなたを助けてくれる人が来るので待っているように」

と言いつつ、自分の老いをしみじみ感じるのだった。そべりながら、自分の老いをしみじみ感じるのだった。しかしどうする事も出来ない。しばらく待って一〇時頃に部屋のドアがノックされて、女の人が来てくれた。五〇歳ぐらいの瘦身のきれいな人だった。荷物はそのままにして、タクシーに乗り込んだ。タクシーはマドリッド・中央署の前に止まった。盗難や事件その他難しいスペイン語の通訳の方は赤井猪子さんだった。スペインに長く暮らしていて、スペイン人のご主人は音楽家だそう。御主人は演奏旅行でいない事が多く、専門のスペイン語を生かして、難しい専門用語が活か

せる、「難しいスペイン語専門通訳」の会社に籍を置き働いているようだ。盗難や事件の他、病院の手配から、医者を選定、病名の説明、診断の説明弁護士を選定、法律用語の通訳など、多岐にわたって仕事があるようだ。マドリッドの中央署は待合室が一杯だった。事件が頻繁に起きている事が解る。三〇分位で小部屋に呼ばれた。これから書類を作るから、聞かれた事だけに返事してください。と赤井さんは言うのだ。私はかばんの中身、かばんの形状を語った。三〇分位で書類が出来て、ここにサインをして下さい。と言われたのでサインした。赤井さんも立会人という事でサインした。赤井さんは

「この書類は保険請求の時の重要な書類です」

と言いだ事に保管してくださいと言った。なんだかあつけなく書類が出来たのでホッとしていると、

「これから写真を撮りに行きます」

歩きだした。足が速いのだ。デパートの一階に写真屋さんのおばさんが居て即席写真を撮ってくれた。二回ほど撮ってくれたが、日本の箱型の自動写真に慣れているので、スペインは少し遅れていると思った。いくらだったかは知らない。赤井さんが払ってくれた。後で支払い明細を見ると、全部で八万五千円位だから赤

井さんの稼ぎはとても多い。写真を持って日本大使館に行った。閑静な高級住宅街の中にあつた。昔の日本の役場のような木造の建物の二階に案内された。パスポートナンバーを聞かれたが解らなかつた。受け付けてくれた若い女の方は、少しも騒がずこれがあなたのパスポートナンバーですといい、パスポートナンバーを教えてくれた。わたくしが

「どうして解るのですか？」

と、不審な顔を見ると、薄く笑つて、

「これで日本に帰れますヨ」

と言ってくれた。私はなんだか肩の力が抜けて、喉の渇きが急に感じられた。どこにいても全世界にネットワークが張り巡らせてあるのだ。悪い事は出来ない。

「水を頂けませんか」

私が遠慮がちにいうと、大使館の女性は紅茶をいれてくれた。私の好きなアールグレイという銘柄だった。

「アールグレイ」

と私がいうと赤井さんも、美味しいですネと言った。これで赤井さんともお別れなのだと思ひ少し変な気がした。赤井さんは、

「これからツアーに追いかけていきますか？」

私は追いかけていけない心算になっていた。

「追いかけてません、マドリッドで待っています」

赤井さんは朝に出会ったホテルまで、連れて行つてくれて別れた。

「別のホテルにご案内しますが、ここでお待ちになれば、別の者に荷物を運ばせて頂きご案内させます」

赤井さんは時間給で働いているのかもしれない。時間給の安い者を廻してくるのかもしれない。赤井さんの今日の仕事は一〇時から一二時まで二時間ほどだから、一時間当たりの時間給はどれほどになるのだろうか、八万五千円の半分にしても凄いものだ。そして短い時間でてきばきと手配してくれた。ありがたい事であった。

その日の一時頃、四〇歳位の男が現れて、私のスーツケースを引いてくれて、別のホテルに案内してくれた。

「私はお金が無いので、お礼は出来ません」

親切に面倒を見てくれる男にいうと男は、

「解っています。仕事ですから・・・大変でしたね」

「あのようなホテルはスペインでは一般的なのでしょうか」

私は旅行社のホテル選定に不満だった。スペインのバ

ブル崩壊で売れ残ったマンションをホテル代わりに使っているとしたか考えられなかった。旅行社の男は、

「よくありますよ、スペインのバブルが崩壊して、銀行が破たんしたので、バブル時代のマンションが沢山あるのです」

「スペインのバブルはどうして起こったのですか」

「それはユーロ―導入で土地が二倍か三倍になったので、勘違いした人々が銀行からお金を借りて、投機的なマンションや家を買ったのですね。バブルを膨らませてしまった」

「どうしてはじけたのですか」

「それはマンションや家を買った者に、実力が無いのに銀行が金を貸して買わせたから、利払いが出来なくなり、破産したからです。儲けた企業は国外に逃げ出したので、ホームレスが沢山になりました」

「スペインの若者の六〇パーセントに仕事が無いというのは本当ですか、スペイン政府統計局が発表しましたよね！」

「本当ですよ！スペインの政治も経済も破綻しているのです・・・ご飯食べに行きましようか」

荷物を部屋に置き、黒いコートを着て男のいうまま

に後ろについて行く。しばらく歩くとまるでアメ横の通りのようなにぎやかな一角にでた。男は知人と出会い一緒に日本食レストランに入った。午前にお世話になったスペイン語のスペシャリスト赤井猪子さんが、日本食レストランの端の席で手を振っていた。私は複雑な心境だった。日本人離れた体つきだった。午前には灰色のオーバークोटに身を包んでいたのが気が付かなかつたが、ヨーロッパ人のような体つきだった。薄紫色のセーターの下には豊満な胸が隠され盛り上がりつつあった。赤井さんはいう。

「ランチと一緒に食べましょう。私たちはいつも同じ顔ぶれだから今日は日本の様子を聞きたいわ」

「日本の様子は新聞に書かれている事以外に面白い事はありません。日本もスペインも同じです」

私は日本食レストランの入口のレジの横に、日本の新聞があるのを見ていた。旅行社の男は言った。

「今日のメニューが良いですか、日替わりメニューがあるのです」

「面倒だからそれでいいわ、お酒もいいでしょう」

赤井さんがいうと皆うなずいた。日本食レストランはランチの客でいっぱいだった。客はスペイン人と東洋風の人と半々ぐらいの比率だった。焼き魚と刺身、サ

ラダ、味噌汁等々、日本に良くあるメニューだった。お世辞にも美味しいというわけにはいかない。私は伊豆の魚をさばいで自分で料理して食べているので、口が我ままなってしまうようだ。赤井さんはじめ旅行社の男たちには悪い事をしたようだ。でも久しぶりに飲む日本酒は美味しかった。

「日本でも、スペインの人たちがマドリッドのプエルタ・デル・ソル広場に何日もかかって歩いて、新自由主義経済に反対してデモ行進したのが話題になりましたよ」

赤井さんは箸をおいていった。

「そうなのよ、消防士も、非番の警察官もデモに参加したのよ」

旅行社の男たちもうんうんというようにうなずいている。

「学校の電気まで止められた、消防士や警察官の首切りが行われているので深刻だよね！」

「スペインにラスベガスを作るといふのは本当ですか」

私は日本でもギャンブル禁止法を撤回して、アメリカのラスベガスが日本に乗り込んできやすくしようとする、動きがある事を知っていた。赤井さんは食べる手



を止めていった。

「本当ヨ！マドリッドとバルセロナに造るらしいの、アメリカのラスベガスの所有者が造るのよ！」

スペインは温暖だからヨーロッパのお金持ちが集まりやすいのだそうだ。しかしサッカー場をつぶせとか、近くに飛行場を作れとかの厚かましい要求があるらしい。

「日本にも賭博場が出来て、中間層から金をかき集めて、太り続ける。この前、大王製紙のお坊ちやまがマカオの賭博場で大借金を作って問題になりました」

「でも私たちにとっては、お仕事の機会が増えるので、歓迎しないという事にはならないのよ」

赤井さんがいう。

「でも、スペインの事を考えると、心が痛むというか・・・」

旅行社の男がいう、彼にはよくしていただいたのに名前を聞かなかった。赤井さんが松ちゃんと言っていたのも私も松ちゃんという事にする。赤井さんは午前とは大違いで、強い声でいう。

「気持ちにはわかるけど、世の中の進行を止める事は出来ないのよ、ここで働いている日本人のような女達は全部中国人でしょう」

ナルホドと思った。先ほどから日本の着物を着て、働いている女達の動きが、日本の安い酒場の女達と違って、動作が緩慢な気がしていた。男は言う。

「この前のデモの中には警察官や消防士、予備役軍人まで参加していたそうですね、これも今までは考えられないような世の中の動きでしょう。私は非人道的なネオコンには反対ですネ」

「あらいうじやないの、この国は健全な反応をしているのよ、日本はどうでしょう。まだ何にも気が付いていないと思います。でもロシア革命のような事にはならないでしょうね」

「日本の政府がやろうとしているのは、まさにネオコン・新自由主義経済の弱肉強食が正しく、社会福祉・相互扶助は邪魔であるというネオコンの意思にそって動いているのですね。小泉純一郎総理の郵政自由化政策の時から、自民党の政策は変わりません」

私がいうと、赤井さんはすぐに言い返す。

「どこの政府でもネオコンの意思を無視して推し進める事は出来ませんでしょう。キューバや中南米の反米国や、イランのように追い詰められても生き残る国は別として、より良い暮らしを追い求める人々の心情の中にネオコンが入り込むでしょうね」

男は酒に弱いのか顔が真っ赤だ。

「スペインのような犯罪的な政府は無いヨ！バブルではじけた損失を銀行や資本家に払わせないで、海外逃亡を許し、国民だけに払わせようと躍起になっている。こんな国は無い方がいい。こんな国なら国民が大変だ。バスクやカタルニアが独立したくなるのは解るでしょ赤井さん」

だいぶ酔っぱらったらしく、呂律が回らない。赤井さんはあきれ顔で笑いながら言った。

「そんなこと言っているの！マアしぶとく長く見ていきましようよ。私もバスクやカタルニアの独立には反対しないのよ。でも軍の偉いさんが独立するならば、この俺を殺して行け！といったそうよ！独立は軍が許さない！という事だから難しいわよ！」

男は目を開けて居られぬほどに酔いが回ったようだ。私が立ちあがりお礼を言った。赤井さんが勘定を払って帰る事になった。男は別の男に送られてよろめきながら帰ったようだ。赤井さんは私をホテルまで送ってくれた。まだ夕暮れ時だった。

「赤井さんは関西のお育ちですか、そのようなイントネーションが感じられます。たぶん京都でしょうか？」  
私はお酒を飲んだせいもあり、立ち入った事を聞いた。

赤井さんは立ち止まって、振り向いた。灰色のオーバーコートの中から赤井の顔が見え、白い歯を見せて笑った。

「よくおわかりですネ、私は語学を勉強しているので、なるべく標準語に近い発音をするように気をつけています。そう京都です」

夕暮れのマドリッドの街角の石畳のうえを歩く。赤井さんと私の靴の音が石造りの建物の壁に響き、中世の町並みを残し疲弊した町は静かだ。しばらくは再開発される事も無いだろうと思った。

狭い石畳の道を時折車が通る。ドイツやフランスの車が多い。少し前まで開業していた八百屋さんや、酒屋さんや日用雑貨の店はシャッターを下ろし、開いている小商店は中国人のおばさんやお姉さんが商いをしてる。ホテルの近くのパン屋と八百屋と酒屋、日用品などを商う小商店に良く行ったが、中国風に改造されていた。風呂屋のバンダイのように一段高くなった所に、中国人のおばさんが深刻な顔をして座っていたので、利益が上がらないのだろうと思った。すべて売れても大した利益が上がるとも考えられない。おばさんに声をかけた。

「マダム、スマイル、スマイル、馬馬虎虎（マーマフ

「フ、ボチボチですね」

声をかけたら、六〇歳位のマダムはニヤツと笑った。そこでベテラーノというブランドを買った。七五〇ミリ入って千二百円位だった。黒い牛と闘牛士のラベルは無くなり、シンプルな普通のブランドだった。マタドールの店はやっていけなくなり、闘牛フアンの爺さんも孫や子供を養う事に必死で、老闘牛士の思い出に付き合う事も出来なくなっているのかもしれない。石畳の上をコツコツと赤井さんと私の靴の音が響く。私という。

「赤井さんは赤井猪子さんでしたね。赤猪子あかいこは子供の頃雄略天皇から、

「かわいい子だね、きつと迎えに行くから、いつまでも待っていてくださいネ」

といわれたのを真に受けて、八十歳を過ぎてから待ちきれなくなり、雄略天皇に逢いに行ったら、雄略天皇は、

「もう少し早く来ればよかったのに」

と笑われてしまった。歌が残っていますね。

赤井さんは笑いながらいった。

「私の祖父が面白がって付けた名前なの、だから名前にふさわしく彼を待ってばかりの人生よ！彼は気まぐ

れだから、一年も帰ってこないときもあるのよ！」

「演奏旅行ですか、音楽家は世界中に行くのでしょうか、奥さんは大変ですネ」

「雄略天皇の歌は

御諸みもろの敵かた白樫しろがしがもと

白樫しろがしがもとゆゆしきかも 白樫原かしわら童女おとめ。

と、たぶん云うのでしょうか。意味は

（三輪山の神聖な樫の木のように、畏れ多く、言いやりがたい、老女になってしまった女よ）

失礼でしょう、大人しくお迎えを待っていたのに、

樫の木のようになったから共寝出来ないなんて、馬鹿にしているわね。こういうのもあるのよ」

引田いねの若栗わかくるすはら栖原すはら若くへに  
率寝いねてましも、老いにけるかも

（引田の若い栗の木のような若い時に、共寝を試みたかったが、今はあまりにも老いてしまった）

「栗の木は生殖と関係があるのよ。栗の花の臭いは男性の精子の臭いだというわ」

私は驚いてしまった。赤井さんは自分を赤猪子になぞらえて生きているようだ。ホテルのバーで私たちは生ハムを取り、ブランドを飲んだ。私は赤猪子の歌は思いだせなかった。

「赤猪子が詠んだ歌もあるのでしょうか」

赤井さんは、ブランドーを飲み、オーバーコートを脱いだ、ほっそりした身体なのだが、胸や腰にポリウムが感じられた。赤井さんは生ハムを指でつかみ食べた。赤い舌が見えた。赤井さんは静かにしゃべった。

「赤猪子の歌は悲しい歌だから、思い出したくないワ、でも思い出してみるワ！確か二つあるのよ！」

御諸につくや玉垣 つき余し

誰にか依らん 神の宮人

(三輪山の立派な石垣になり損なつた石は、誰を頼りましようか、神様に長く仕えてしまった者は)

日下江の入江の蓮花蓮

身の盛り人 羨しきろかも

(日下の入江に咲いた美しい蓮の花のように、若く美しい人のなんと羨ましい事よ)『万葉集下巻から』  
私ももう年寄りだから、若い人の美しさにはかなわない、でも羨ましいとは思わないはヨ！若い時代をもう一度繰り返すのだつたら耐えられないワ！」

赤井さんは語学の天才なのだろうか、スルスルと古歌が出て来るのだった。私も雄略天皇の人間臭いスケベな所が嫌いではなかった。雄略天皇の頃、新羅の船が火事になり、五百艘の日本の船が類焼した。新羅の

王は大変恐縮して、造船や木工の職人集団を送つて来た。猪名部氏いなべだった。猪名部真根まねという匠が一日中、石を土台にして手斧で木材を加工して、少しも刃を傷つけなかった。雄略天皇は自信満々の真根の態度に腹を立てて、

「女官を裸にして相撲を取らせろ」

と命じた。真根は手元が狂い、手斧の刃を傷つけてしまった。雄略天皇は真根を殺そうとしたが、皆が嘆願したので許したそうだ。

『雄略記十三年九月条』

赤猪子は猪名部系統の渡来人だったかもしれない。猪名部とは猪の牙と関係があるらしい、カンナが出来る前、木を荒削りにする、手斧はチョウナ猪名と呼んではらしい、鉤型に曲がつた木に猪の牙を取りつけて木を削つたそうだ。それが猪名部のもとなつたそうだ。そんな事を話し合っているうちに、赤井さんは眠ってしまった。

いつの間にか私たちは私の部屋の冷蔵庫のある部屋で飲んでいたのであった。ベッドが二つあるので私も酔いしれて眠つた。朝、めざめると赤井さんはいなかった。キツネに憑かれたような一日だった。

朝食付きのホテルだから、下のレストランで朝食を

食べ、ぼんやりしていると電話が鳴った。最初はスペイン語だったが、赤井さんが出て、

「バルセロナに仕事が出来たので、アベで行きますが、バルセロナまで行きませんか？」

私は迷ったが取りあえず行く事にした。

「有難うございます。お願いします」

「ホテルまで行きますから待っていてください」

私はスーツケースの底に貼っておいた、トラベラーズチェックを取り出し、ホテルの両替所でユーロに替えた。ドルからの両替は大変な損をしたような気分になる。必要最低限の荷物を小さなバッグに詰めて、ホテルのフロントで待っていると、赤井さんがベージュのコートを着て現れた。すぐマドリッドの駅までタクシーを飛ばし、バルセロナ行きの新幹線AVE（スペインの高速列車）アベに乗った。アベとは鳥という意味もあるそうだ。

二〇一三年七月二十四日に、サンチアゴ・デ・コンポステーラ・巡礼者の訪れる有名な聖地で、アベはカーブを曲がり切れずに、脱線事故を起こした。七九人が死亡し、一四〇人以上が負傷した。それ以来スペインの高速鉄道の人気が落ちて、当日でも乗る事が出来るようになった。まして観光立国スペインのシーズ

ンオフだったので、座席には余裕があった。最高速度は時速三〇〇キロで日本の新幹線よりも早い。私はゲルニカの街とモンドラゴンに行こうと思っていた。

タラゴザからバスへ

赤井さんはバルセロナでの仕事が入って誘ってくれたのだ。昨夜のお酒を飲んでいる赤井さんとはまるで違う、ビジネスライクな態度だ。これからバルセロナまで六百キロ以上の旅であるが、三時間位で着けるはずだ。赤井さんは資料を出して、確認しているようだ。

私はスペインの地図を出して、タラゴザで乗り換えてバスク方面に行こうかと思っていた。ゲルニカの街とモンドラゴンの街は近いので、ゲルニカからモンドラゴンまで行こうと計画した。バルセロナの街は何回も行っているの、赤井さんと別れるのは惜しい気がしたが、バルセロナ経由ではなく、タラゴザで降りる事にした。バルセロナは五年ぐらい前オーブンハッチの二階建てバスに乗り、市内をバスの二階から見た事がある。バスの二階は寒く途中のデパートでセータを買った事が思い出される。そんな事を思い出していたら、ランチを運ぶ手押し車が来て、飛行機の機内食のようにセットされたランチを出された。赤井さんは書

類をカバンにしまいながら言った。

「スペインの国鉄も航空機やバスなどとの競争があるので、ランチサービスが始まったのよ」

私はちようどおなかが減っていたので、サンドイッチやイカのフライやサラダなどを食べた。赤ワインは小さなボトルだが、美味しかった。赤井さんも飲んでる。

「赤井さんは出張が多いのですか」

「結構多いわよ、日本人はスペインのどこにでもいますからね。この前グラナダに行きましたよ。グラナダのフラメンコ集団に入っていた日本の若い女が、男を好きになって、男の愛人やその友達にひどい虐待を受けたのよ、日本人は無警戒だから」

私も無警戒になっていたのだ。独り歩きには慣れていたはずだが、いろいろな意味で世界は変わっているのだ。

「モンドラゴンの街まで行こうと思います。治安は大丈夫でしょうか、モンドラゴン協同組合の事を教えてくださいませんか」

「モンドラゴン協同組合の事は私もよく解らないのだけれど、スペインの企業の中でも、七番目ぐらい大きな企業体なのよ。良く言う人と、悪く言う人がいるワ。」

だけれど、サッカーFCバルセロナも協同組合方式で会員の会費で運営されているというわヨ。会員は十八万人いて、世界中のスポーツ企業体の中で一番年俵が高いそうですよ」

「ニューヨークヤンキースの野球選手よりも年俵が高いのですか？」

「そうです、凄いでしょ、運営は会員の一票で決まるので、今の監督はやめて、次の監督になるそうよ。自治意識が強く、マドリッド中央政府からいじめられているとの思いから、レアルマドリッドとは犬猿の仲といわれているワ！」

「ワールドカップのスペイン代表はバルセロナの選手が中心でしょう。大丈夫ですか。内部分裂でスペイン代表はぼろ負けしないでしょうか？心配ですネ。FCバルセロナはバルサといいますね。すごく大きなサッカースタンドを持っていますね。私は行った事があります試合は見ませんでしたけれど・・・」

「私は行った事が無いのよ！マドリッドではやはり地元ของทีมを応援するワ。友達とワイワイ応援してバーでお酒飲んで：昔は良かったワ。今は行かなくなつた。皆、元気が無くなったようネ」

赤井さんは、前方に目をやった。昔を懐かしんでいる

ようだ。

「次の停車駅はタラゴザヨ、モンドラゴンはタラゴザで乗り換えた方がいいワヨ、モンドラゴンは公式名アラサーテ・モンドラゴンというのよ。モンドラゴエと言った方が解りやすいかも shouldn't!」

タラゴザの駅は閑散としていた。赤井さんには大変お世話になった。一人になった寂しさよりも、恋人に去られたような寂寥感が身にしみた。しかし一人旅の程良い緊張感が戻り、若い頃の感が戻った。バスケットの入口ビルバオを目指して進む。ビルバオからはバス鉄道に乗り北上する。サンセバスチャンの途中にモンドラゴンはあるはずだ。頭の中に旅程を刻み込む。スペインの地図をホテルでもらったが、何回も触っていないのに、折り目の所から破れてしまった。やはり日本の紙は歴史があり違うなと思った。モンドラゴン協同組合は組合員の一人一人が同等の権利があり、一人一票の権利が与えられる。毎月協議会が重ねられて企業が運営されてゆく。賃金格差は一对九までであるが、実質的には一对五ぐらいだそうだ。スペインは累進課税の率が高く、高給を取ると税金が高くなり、脱税の対策を取らないので、高給を嫌がるそうだ。

二〇一一年五月十五日スペインの怒れる労働者達はマドリッドのプエルタ・デル・ソルからEU本社のあるブリュッセルまで歩いてデモ行進した。最初は少人数のデモ行進だったが、フランスに入ったら行進に賛同する人が多くなり、フランス・パリに入る頃には各国から集まった労働者が加わって膨れ上がった。ノートルダム広場に入り切れない位に参加者が多くな



反グローバル経済キャンペーンポスター

った。ノートルダム警察署は無届デモだとして逮捕に踏み切ったが、デモ側はあくまで通行中だとして抗議した。ノートルダム警察もますます膨れ上がる労働者の数に驚き、逮捕した労働者を翌日には解放した。

「急がずに行こう！道は長いのだから！」

「世界の公正と、平和と、正義を目指す長い行脚だ！」

世界に新自由主義（ネオコンサバイブ）ドイツのヒトラーと同じ思想による、強い者が勝って弱い者は負けるのは自然だと、社会福祉を切り捨てて、経済合理性のみを追求する、弱肉強食の論理こそ正しいという。日本にもTTPや賭博法改正などを強制して、市場開放という名の略奪行為がなされようとしている。このような世界があるのに、気が付かないでいる世界に警鐘を鳴らし、ポスターや文書などを作ってスペインから発信しようじゃないか！沢山のポスターが造られた。その中で面白いのは、若い女性が寝転んで殆んど裸の足をVの字にあげて、Vサインを作り、私たちは勝つだろう。負けるわけにはいかない。といった気概を見せているポスターだ。このポスターに象徴されているように、この運動は深く静かに人々の中に浸透し、指導者がだれか解らないほどに深くしみ込んでいる。



反グローバル経済キャンペーンポスター  
〈私たちは勝利する〉

グローバル経済などというと恰好いいけれど、アメリカの自由主義経済は、アメリカの貧困を輸出しているだけだと思う。九九、九パーセントの貧困層と、〇、一パーセントの富裕層とにふるいにかけて、貧困を輸出しているとしか思えないのだ。全世界の富を収奪しようとする各国に圧力をかけている。スペインにカジノを輸出しようとする圧力をかけている。スペインでは具体的に場所まで決まっているそうだが、この頃は日本に



も圧力がかかっているのか、安倍総理は、

「パチンコ屋が沢山あるのだから、総合的なレジャー施設の中にカジノがあってもいいのではないか」

ラスベガスの帝王アンデルソンは、十分な投資をする用意がある。とテレビで言っていた。禿鷹のような風貌で、あんな年寄りが全世界に、ネットワークを張り巡らせて、個人情報操り、金を貸しつけてギャンブルの負けを多くして、人々を地獄につき落とす。大王製紙の御曹司がマカオで大負けして、連日テレビで報道された。もう一回我々は深く考えてみなければならぬ。

スペイン・ビルバオには飛行場があり、バスクの中でも大きな町だ、ビルバオに今日は泊る事にした。ペンションがあり、三〇ユーロ（四〇〇〇円）位で泊る事が出来る。夕食は近所のバールに出かけた。一人旅の時はお酒を控える。ビールはスペインではセルベツサという。列車の中で昼食を食べただけだから、バスク料理を食べようとメニューを見たが解らないので、隣で食べていた若い方のカナツペふうの食べ物がかわいらしくそれを頼んだ。



バスク名物料理 ピンチョス  
150円位

バスクの料理はピンチョスが有名で美味しい。丸いパンに生ハムが挟んであったり、生ハムとチーズが挟んであったりで、一つが一ユーロ（一五〇円）位である。チーズが美味しい。小さなパンにチーズクリームを塗り、上に野菜や肉を乗せてケーキ風にまとまっている。沢山食べても安心だ。バスクはスペインとフランスの国境の場所だから山を隔てた山の向こうがフランスだという。陸運が発達した現代は山の中の町にも

地中海の魚と、大西洋の魚が集まるので魚貝類のフ라이が美味しかった。垢ぬけした料理である。

## ゲルニカ

ゲルニカの街は谷間にあった。ビルバオからバスケットに抜ける交通の要衝である。どうしてこのような山間の町が一九三七年に空爆されたのか、しばし呆然とした。無防備の人々は逃げまどい倒れていった。この日殺害された人々は七千人中、千六百五十人、負傷者は八百八十九人、世界にゲルニカの大虐殺として報道された。フランコ軍と空爆したドイツ・コンドル軍団は国際的な非難を浴びると、あの爆撃は過激なバスク民族主義者、とアナーキストによる爆破事件として謀略宣伝した。その謀略宣伝に踊らされた人々も沢山いた。今でも同じ事がシリアで行われている。シリア政府を攻撃しているのは自由シリア軍で、イラクのバグダッドに進撃しているのは、同じグループなのにISISという、アルカイダも手を焼く程の、極悪非道な、危険な超過激派だとアメリカのメディアは言っている。

ゲルニカの街は焼きつくされ、三時間にわたり、二百トンの爆弾が投下された。多くのものが破壊されたが、ビスカヤ県の議会とオークの木は焼け残った。バ

スク人はオークの木の下に集まり、協議し共同体を運営してきた歴史がある。バスク人の自由の象徴であるオークの木は焼け残り、その木のそばに集会場が建てられ、現代でも議会場と兼用されている。ピカソの代表作『ゲルニカ』はここにはない。マドリッドのプラド美術館の隣の王妃美術館で見た事がある。いまビルバオに出来たグッゲンハイム美術館と、王妃美術館との間で『ゲルニカ』をめぐる所有権の争いになっている。ゲルニカの街は静かで、ところどころに池があり、水鳥がのどかに浮かんでいた。緑の深い山間の町だ。



ゲルニカで焼け残ったオークの木と集会所

## モンドラゴン協同組合

モンドラゴンとは山に龍が住んでいたという伝説から来たそうだ。山のドラゴンを鍛冶屋の男が退治して伝説になり、ドラゴンの住む山として龍退治の伝説は今も残っている。モンドラゴンの街は小さな町で、サント・バルバラ山地の中の盆地中にある。ドラゴンが住んでいそうな山々に囲まれて、人々は親子づれや恋人同士などで語らい、バールでは男たちの笑う声が聞こえて来る。ここにモンドラゴン協同組合の本社がある。奇跡のような世界の再生が行われている所があると言われている。

モンドラゴン協同組合の事を書く前に、バスクファンの私は、バスクの事を少し書きたい。イエズス会は日本でも良く知られている。ザビエルが長崎に来た事も知られている。イエズス会は中世の暗黒、行きづまった中世の政治・経済を立て直した。キリスト教の教義を見直し、国際的にキリスト教をひろげる事により、キリスト教が世界に広く認知されると、ヨーロッパとアジアの交易が盛んになり、ヨーロッパの経済も立ち直って行った。スペインに大繁栄をもたらした。そのきっかけを作ったのはバスク人のイニゴ・デ・ロラヨ。

とフランシスコ・ザビエルなど、バスクの男たちだった。神学論争やドメニコ派による異端審問など、火あぶりや拷問が行われた。ドメニコ派はカソリックの犬といわれ恐れられた。イエズス会は根気よく転向する学生とコミュニケーションして、転向防止に努めたそう。イエズス会も神学論争を切り上げ神学の都パリ・ソルボンヌの学寮を旅立ち、サンジャック門から、スペインのサンチャゴ・デ・コンポステーラに詣でる巡礼の旅にでた。ザビエルは、バスクとフランスの国境に近い山間の地にある、ザビエル城の城主の六番目の子供として生まれた。国境の城なのでフランス王家が乗り込んできたり、スペイン王家にとりこまれたり、ピレネーの山間の地も気が休まる事が無かったようだ。イエズス会の始まりはソルボンヌ神学校の学寮から始まったと言われる。当時のキリスト教の教義、解釈をめぐる対立は深刻で、魔女裁判、異端審問がひんばんに行われていた。イエズス会はカソリックの教義以外認めず、少しでも外れた教義には猛然と反論して改宗を諫めた。ソルボンヌのその他の学寮ではフリーセックスの勧めや、コンドームをめぐる神学論争などが盛んだった。ちょうどルターやカルビンなど、宗教戦争になって行く頃だ。ザビエルはインドに派遣

され長崎にも来た。キリスト教の布教の成功は植民地の民政の安定をもたらし、西欧の経済的な繁栄をもたらした。イエズス会は世界中にキリスト教を布教することでヨーロッパの危機を救った。しかし今のイエズス会はお金持ちのための学校や財閥・財団があり金持ちの宗教となり果てていると聞いた。一つの論理や教義が永久に続く事にはならない。しかしバスク人の自治意識はつよい、モンドラゴン協同組合も歴史的な失敗の中から学び、社会主義的な手法をとってはいるが、権力の分散、共同体的・自治意識を高める事。など手間暇かけて運営されている。

モンドラゴン協同組合はバスク人のカソリックの聖職者、ホセ・マリア・アリスメン・デリアリエタが一九四一年に開設した、小さな技術学校が始まりだと言われる。人口七千人の街は貧困や飢えに苦しんでいた。スペイン内乱の混乱の中に取り残されていた貧しい町だった。ジョージ・オーウエルの『カタルニア賛歌』によれば、内戦中のスペインの貧しさはすさまじく、何のために戦っているのかも、解らなくなるぐらいの飢えの中で戦っていたと書いている。当時のソ連の官僚主義・スターリン主義にも苦しい思いをさせられた。オーウエルはすべての人が飼いなされた世界『動物

農場』を書いた。デリアリエタが造った学校は地元企業の熟練工、技師、管理者の養成所になって行った。

パラフィンヒーターを作る小さなワークショップ・ウルゴンを立ち上げた。参加した若者の頭文字を並べたものだった。最初の十五年間は閉鎖経済の中で利益を上げた。一九五九年組合の事業としてカハ・ラポラル信用組合が設立された。一九六六年には社会福祉事業として、ラグン・アロ・保険業が設立され、一九六九年には地元にあった消費生活組合を統合してエロスキ（スーパーマーケット・チェーン）が開設され、一九七七年モンドラゴン大学が開校した。現在ではスペインにおいては総資本回転率の点では七番目の企業でありバスク自治州をけん引するビジネス集団である。協同組合はそこに働く労働者集団によつて所有されていて、組合員の連帯による強い仲間意識によつて運営されているが、ビジネス的な手法も否定しない。権力は一人一票の原理に基づいて運営されている。

モンドラゴン協同組合員の賃金はそれほどの差が無い。熟練専門職もジェネラル・マネージャの賃金も労働者が決めるのだから、一般社員の水準の五倍を超える事は無い。それも一人一票の原理が働いているので、不公平感が無い。協同組合の企業は金融・工業・小売

り・ナレッジ（知的共有、生産管理公開）などで事業を行っている。ナレッジはモンドラゴンが寄って立つ所で、特徴的な所である。二〇一〇年に米ドルに換算すると二〇〇億ドル、日本円に換算すると、二兆円、十万人の雇用を生み出しているのだ。スペインでは工業で第四番目の金融では七番目の企業体である。



モンドラゴン協同組合本部

しかし今は知的に公開されない、世界中のお金の流れの半分位が投資に廻り、表に出ない金が半分以上あるらしい。私はカリブ海にある、ケイマン諸島に行ってみたけれど、ポストだらけの小さな島に多くの企業が本社を移し脱税している。第一あんな暑い所には住めないし、税金天国の島は小さく三〇分で回れるほどの小さな島だ。解っているのに見ぬふりをして税金を取らない。金持ちは政治家も抱き込み、意のままに世界を動かしている。日本も企業減税するそうだ。日本の客船も日本籍の船は無い。皆パナマ船籍である。安倍総理もそんなに日本の安全が気になるのなら、自分の孫を自衛隊に入れて真っ先に戦場に向かわせるべきだ。

モンドラゴン協同組合は自由に参加できる。基本的な仕事が出来る能力があれば、すべての男女に差別なく参加の機会がある。

総会が最高機関である。「一人一票」の原則によって運営される。理事会を選出し、理事会は総会に対し、協同組合の運営に責任を負う。理事会は四年ごとに開催され、理事の半数は二年ごとに更新される。協同組合においては労働が自然と社会、および人間自身を変革して行く主要な要素であると理解されている。創造

された富は提供された労働によって分配される。常に新たな仕事の創造が追求される。そのような理想的な運営をしても、絶対という事は無い。

二〇一三年一〇月「モンドラゴンの主要協同組合フアゴール」が倒産の憂き目にあっているというニュースが入って来た。フアゴールは家電製品の生産と販売の部門だが、ポーランドの子会社倒産し、フランスのフアゴール、アイルランド、バスケット連鎖的に倒れていった。韓国や中国の家電製品と競争して敗北したらしい。外国企業の買収や子会社化が響いたのではないか？などと言われているが、協同組合の基本理念を守るべきだったと違ったのではないか。

イタリアにおいても社会的協同組合は増え続けている。二〇〇一年から二〇一一年までの一〇年間で協同組合の伸び率は二倍になっている。日本でも安倍総理は「骨太の方針」の中で多様な働き方、残業代を払わず、成果主義・農協の解体、農村の集約化、企業減税などを成長戦略としたが、株価は上がらずどこからも評価されなかった。六月二五日の株価はチャートで見ると断崖のように下がり一〇〇円以上も下がっている。

山裾に囲まれたモンドラゴンの街は穏やかで、子供や家族ずれや、恋人や学生が笑いながら通り、牧場には牛が寝転んでいた。モンドラゴンの大学も丘の上に建てられ、奇抜な現代建築だった。空気が穏やかで、人々の顔は和やかワインも美味しく、男たちは遅しく、男たちだけの料理クラブがあり、男たちがそれぞれ持ち寄って料理を作り、女には聞かせられない冗談を言っただけで笑い転げるそうだ。たとえば

「この前太ったおばちゃんたちの乗ったバスが谷に落ちて皆死んだでしょう」と言ったら、泣きだした男がいた。「オイオイここは泣くところじゃない！」と言ったら泣いていた男は「俺は見たんだヨまだ一つ座席が空いているのをね」ここでみんな大笑い。いつも母ちゃんの尻に敷かれている男たちは、日頃のうっ憤を晴らして、はればれとした様子で帰るそうだ。

帰りはバルセロナに出て、スペインの高速列車アベ号に乗り三時間位でマドリッドまで帰った。赤井さんが居ないかと思えば号の車内を探したが居なかった。良くある偶然は現実にはないのだ。私を置いて行ったツアーの客も帰って、ツアー最後の晚餐はガーリック味の肉の煮込み料理だった。もちろん一人旅では飲めない強い酒、マタドール・ベテラーノを頼んで飲んだ。

日本が大負けしたコロンビアのゴールキーパーはモンドラゴン四三歳だが、ここでは関係が無い。日本はまだまだ実力が無い。同じような個性の寄せ集めでは勝てない。一〇〇メートルを一〇秒台で走る選手や、身長が二メートル位のゴールキーパーや個性のある選手の融合体が良い。日本人の監督を育ててほしい。外人は言葉の壁があり、こまかな意図が伝えられない。上手い選手だけでは通用しない事が解った。アジア勢は全部敗北した。余計な期待をした我々がいけないのだ。長友は試合後泣いていた。それを慰めているコロンビアの選手はいやな奴だ。今度の敗北の責任はザッケローニ監督である。監督を止める事が求められる。後任は日本のサッカーを外国にアツピールした中田がいい。中田ならば引退後世界を廻り世界のサッカー事情を知り尽くしているので、世界中からすごい選手を見つけに来て、日本に帰化させて日本のサッカーを強くしてくれるのではないだろうか。

日本のラグビーは強くなった。この前もイタリアと対戦して勝った。十連勝している。どこから連れて来たのか？フィジーかトンガからかもしれない、身体じゅう刺青した輩が暴れまくっていた。太平洋は一つなのだ。純国産でなくとも良いと思うのだ。それにして

も前回優勝のスペインがあっさり敗退するとは思わなかった。赤井さんの心配が当たった。スペインの監督はよくない。主力選手をピッチに出さないで、「負けたのは、むこうのほうが強かったから」とほざいた。もしかしたら殺されるかもしれない。買収されていたのかもしれない。世界は何処に向かっているのか、日本人はどこに向かつて居るのか。心配なこの頃である。